第４回「空港運営に関する有識者懇談会」議事概要

日時：平成２４年１月２６日（木）１３：００～１５：４５
場所：道議会庁舎１階　第１委員会室
内容：国管理空港のビル会社からのヒアリング等

空港ビル会社からの発言概要

北海道空港（株）

○ 空港は、地域交通の結節点としてだけではなく、情報発信や地域の賑わいの核となり、それ自体が地域交流拠点、観光資源、物流拠点として、地域経済等の成長に寄与する重要な役割を担っている。
○ 経営一体化により、一定程度の空港運営の効率化は期待されるが、対象となる事業範囲等が明確に示された上で、非航空系事業収入が着陸料の低減化等にどの程度寄与するのか検証が必要である。
　尚、駐車場はターミナル機能の一部と考えているが、その他の空港機能も含めた事業範囲の検討が必要と考える。
○ 空港毎に抱えている事情が異なるため、一律にコンセッション方式を経営改革の手法とすることは馴染まない可能性もあり、報告書にあるとおり、その他の民営化手法も含めた検討が必要と考える。
○ コンセッションプロセスにおける運営者の選定条件については、入札価格の最大化にとらわれず、空港が持つ公共性等を十分踏まえるとともに、着陸料等の低減化による国際競争力の確保等の戦略性についても、十分留意する必要がある。
○ 複数空港の一体運営については、コストの低減化やネットワークを維持するための一つの手法と考えるが、その前に、広大な北海道においては、航空ネットワーク戦略等の構築が重要と考える。
○ また、13空港を有する北海道においては、空港毎に地域の事情や環境が異なり、管理主体や制度にも違いもあること等から、北海道から1つの方向性を示して頂き、その上で検討を進める必要があると考える。
○ 下もの運営のノウハウは有していないが、ターミナルや空港関係のメンテナンス等は行っている。業務範囲が明確に示されていないのではっきりとしたことは言えないが、下もの運営の人員、体制等についても十分整えていくことは可能と考えている。
○ 国や道と十分連携の下、新たな空港運営に参加することを希望する。

函館空港ビルデング（株）

○ 観光を基幹産業としている函館にとって、空港の果たす役割は極めて重要であり、空港が地域を支えているといっても過言ではない。
○ 空港全体での徹底的な効率化を図る観点から、経営一体化の推進は必要と受け止めているが、運営者が大きなリスクを負う可能性があるため、リスクに対応した方策が必要。
○ 空港は、公共交通インフラとして高い公共性・公益性を有しているため、その運営に当たっては、新たな空港運営主体、地方自治体、地域経済界などとの協働関係を保持した上で、長期的に安定した運営を図ることが最も重要。
○ 空港は地域の特性を活かし、地域が主体性を持って運営することが肝要と考えており、函館空港については、地元関係者と連携し、当社が主体となった単独での運営を希望。
○ 新幹線の影響については、東京周辺からのアクセス時間を考えた場合、多少、最初は影響が出るかもしれないが、将来的には、空港も対応できるのではないかと考えている。
○ 販売なり、テナントの売上などが減少する中で、人件費の見直し、経費の削減により、スリムな会社作りを目指している。

○ 公共交通インフラの機能を高める、滑走路等の耐震化工事などの大規模投資については、従来通り国が実施すべき。

稚内空港ビル（株）

○ 空港は、首都圏との人、モノ、情報の流れの促進による宗谷管内の経済活性化に寄与し、国防と大規模災害時の拠点、高速交通ネットワークの拠点としての役割を有する。
○ 現状を変革して、空港運営の一体化等の何らかの改革を図り、その効果を地域や国民に還元していく必要がある。
○ 民営化は時代の流れであり、否定されるものではなく、単独で駄目な場合には、バンドリングという方法で選択肢が増える事がベターである。
○ 空港民営化の検討に当たっては、空港機能存続のためのセーフティネット、何らかの公的な支援についても検討が必要と考える。
○ 北海道全体を考えると、空港の発展なしに北海道の発展も考えられないため、１３空港がWin-Winになるような形で議論してほしい。